



Title	仕事現場における連携と学習：救急救命士の実証研究〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	高橋, 平徳
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第12090号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62257
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Yoshinori_Takahashi_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）

氏名：高橋平徳

学位論文題名

仕事現場における連携と学習 ：救急救命士を対象とした実証研究

本研究の目的は、仕事現場における他者との連携による個人の学習プロセスを解明することである。

今日、仕事の現場でのより効果的・効率的な人材育成や、目的達成のための連携の必要性が高まり、それらを可能とするために、仕事現場における他者や他組織との連携による学習プロセスの解明が求められている。しかしながら仕事現場における他者や他組織、他職種との連携による学習は、ほとんど検討されていないという現状がある。

そのため、本研究では、RQ1「仕事現場においての連携はどのように能力獲得と関係しているのか」、RQ2「連携と能力獲得の間には、どのような学習プロセスが存在するのか」の2つのリサーチ・クエスチョンを設定し、救急救命士を対象に実証的な検討を行った。

本研究は全6章で構成されている。以下、各章の要約を行う。

第1章では、研究の背景と目的について説明した。

第2章では、仕事現場における学習に関わる先行研究のレビューを行った。レビューの枠組みは、学習の場（仕事現場）、学習のリソース（経験、連携）、学習の成果（能力）であり、経験学習研究、状況的学習研究、水平的学習研究、熟達研究、能力研究について検討した。その結果、これまでの研究では、仕事現場の形態が配慮されず、組織内同職種の仕事現場を対象とした研究がほとんどであること、連携が学習のリソースとして捉えられておらず、仕事現場で行われている連携と能力獲得の関係性はほとんど検討されていないこと、また、具体的な連携の内実の検討が不足していること、そして、仕事現場での学習プロセス全体を包括するモデルが未構築であること、といったように、仕事現場における学習については、断片的な解明しかなされていないということが明らかになった。

第3章では、先行研究のレビューを通じて発見された研究課題に対してリサーチ・ク

エスチョンを設定し、アプローチするための分析モデルを提示した。そして分析モデルにそって研究を進めるための研究方法について述べた。

第4章では、RQ1「仕事現場における連携は、どのように能力獲得と関係しているのか」に関して、定量的データをもとに検討した（n=107，有効回答率 88.4%）。まず，救急救命士は，学習の成果としてどのような能力を獲得しているのかを，因子分析によって検討した。その結果，救急救命士の能力には，「救命活動ノンテクニカルスキル」と「救命活動テクニカルスキル」，そして「マネジメントスキル」があることを明らかにした。そして，その能力が，どのような連携から獲得されているのか，つまり連携と能力獲得の関係性について重回帰分析によって検討した。その結果，連携をリソースとした能力獲得については，救急救命士の10年目までのキャリアにおいては，「部下・後輩の指導」と「他地域の職員との出会いや情報交換」が，「救命活動スキル」と「マネジメントスキル」を同時に高めていた。一方で，「職場における対立や衝突」は，「救命活動スキル」の獲得を阻害していた。また，キャリア11年目以降においては，「組織の異動」と「医師との関わり」が，「救命救急ノンテクニカルスキル」を高め，「職場組織の改善・変革や新しい部門組織の立ち上げ」，「激甚災害との直面」が「マネジメントスキル」を高めていた。そして「他職種との関わり」が，「救命活動ノンテクニカルスキル」と「マネジメントスキル」の両方を同時に高めていることが明らかになった。また，キャリアの進展に応じて，連携をリソースとして能力が獲得される仕事現場は，組織内同職種→組織間同職種→組織内多職種→組織間多職種と拡大していく傾向があることを示すことができた。

第5章では，RQ2「連携と能力獲得の間には、どのような学習プロセスが存在するのか」に関して，第4章で明らかにした連携と能力獲得の関係性をもとにして，自由記述調査（n=124）およびインタビュー調査（n=1）という，定性的データによって検討した。その結果，連携による学習のプロセスには，学習のリソースとなる「連携」→「ギャップ認識」→「改善点の把握」→「修正行動」→学習の成果となる「能力獲得」という，具体的な段階があることを明らかにした。

第6章では，結論として，定量的研究および定性的研究によって明らかとなった事実を整理し，本研究の理論的・実践的インプリケーションを示すとともに，残された課題と今後の展開について述べている。